

主題：

真理を認識し、真理に対して絶対的になり、
現在の邪悪な時代において真理を告げ知らせる

2021年メモリアルデー特別集会の標語

わたしたちは真理を認識し、真理に対して絶対的になり、真理の絶対性を保持し、現在の邪悪な時代において真理を証しする必要があります。

真理の霊、実際の霊が、聖書の中に記載され含まれている霊的事実を照らすとき、わたしたちは真理、実際を受けます。毎朝わたしたちは、書かれた御言の中で生ける御言に触れて、神聖な実際、すなわち、わたしたちの存在の中へと注入された、適用された言葉である手順を経た三一の神を持つことができます。

神聖なエコノミーを完成するために、わたしたちは神聖な真理で構成され、神聖な真理の道に対して、また神聖な真理を推し進めることに対して絶対的になる必要があります。

主の回復は、真理の光を回復することです。今日、地上において最も緊急に必要とされるものは、この時代の真理です。召会の拡張は、真理を普及させることにかかっています。ですからわたしたちはみな時間を費やして真理を学び、キリストを人々に供給して、召会を増殖させ、拡大させるべきです。

真理を認識し、真理に対して絶対的になり、真理の絶対性を保持し、

この世の現在の時代において真理を証しする

聖書：ヨハネ 18:37 後半、エペソ 2:2、ローマ 12:2、Iヨハネ 5:19 後半-20

I. 主の回復は、神の御言の中に啓示されている神聖な真理の回復です——IIテモテ 3:16:

- A. 真理とは、三一の神に彼の言葉が伴ったものです——ヨハネ 1:1, 14-17. 14:6, 16-17. 15:26. 16:13. 17:17. 18:37 後半。
- B. 御言の中の多くの真理は失われ、誤解され、間違っ適用されてきました。ですから、主の回復が必要となります——IIテモテ 2:15。
- C. 回復には最高の真理があります。この真理は、過去の何世紀もの間に回復された真理の究極的完成です——IIテモテ 2:2, 15。

II. ヨハネの文書の中で、「真理」というギリシャ語（アレセイア、aletheia）は、神聖な啓示の内容としての、神聖なエコノミーのすべての実際を意味し、それは聖なる御言によって伝達され、明らかにされています——ヨハネ 17:17. 18:37 後半:

- A. 真理とは神です。この神は光と愛であって、肉体と成って神聖な事物の実際となり、それをわたしたちに所有させます——ヨハネ 1:1, 4, 14-17。
- B. 真理とはキリストです。キリストは肉体と成った神であり、キリストの中には神たる方の全豊満が肉体のかたちをもって住んでおり、キリストは神と人の実際、旧約のすべての予告、型、影の実際であり、すべての神聖で霊的な事物の実際です——コロサイ 2:9, 16-17. ヨハネ 4:23-24。
- C. 真理とはその霊です。その霊は、かたちが変わったキリストであって、キリストの実際であり、また神聖な啓示の実際です——ヨハネ 14:16-17. 15:26. 16:13-15。
- D. 真理とは神の御言です。神の御言は神聖な啓示として、神とキリストの実際、すべての神聖で霊的な事物の実際を啓示し、伝達します——ヨハネ 17:17。
- E. 真理とは信仰の（信じている）内容です。信仰の内容は、わたしたちが信じるものの実体化された要素であって、満ち満ちた福音の実際です——エペソ 1:13。
- F. 真理とは、神に関する実際、宇宙に関する実際、人に関する実際、人と神との関係に関する実際、人と人との互いの関係に関する実際、神に対する人の責任に関する実際であり、被造物と聖書を通して啓示されています——ローマ 1:18-20. 2:2, 8, 20。
- G. 真理とは、真実、信用できること、誠実、正直、信頼、信実です。これらは、神について言えば神聖な美德であり、人について言えば人性の美德であって、神聖な実際の流れ出です——ローマ 3:7. 15:8. IIコリント 11:10. Iヨハネ 3:18。
- H. 真理は、真のもの、あるいは真実であるものを意味し、また出来事（事実）の真の状態、あるいは真実である状態を意味し、実際、誠実を意味します。真理は、虚偽、欺まん、偽装、偽善、誤びゅうに相対します——マルコ 12:32. ヨハネ 16:7. ローマ 1:25。

III. 神聖な真理は絶対的であり、わたしたちは真理に対して、また神聖な真理の絶対性を保持することに対して絶対的でなければなりません——IIIヨハネ 3-4, 8 節:

- A. 真理に対して絶対的であることが意味するのは、感覚をわきに置くこと、個人的な

関係を顧みないこと、自分のためではないことです——マタイ 16:24-25. I ペテロ 1:22 :

1. 真理は唯一の標準です。わたしたちは真理の側に立って、自分自身に反対しなければなりません。わたしたちが自分自身から解放されるのはじめて、真理の絶対性を保持することができます——ヨハネ 8:32. II ヨハネ 2 節. III ヨハネ 3-4 節。
 2. もし真理がわたしたちに対して絶対的なものでないなら、わたしたちは神を知らず、神の言葉を知りません——II テサロニケ 2:10. I ヨハネ 5:20。
 3. もしわたしたちが真理に対して絶対的でないなら、自分自身のために、あるいは自分自身の願望のために、神の真理を犠牲にします——箴 23:23。
 4. わたしたちは神の真理を尊び、真理の道を取り、どんな点においても真理について妥協すべきではありません——II ペテロ 2:2。
- B. わたしたちは客観的な真理に対しても主観的な真理に対しても、絶対的であるべきです——ヨハネ 8:32. 14:6 :

1. 聖書の中の真理には客観的な面と主観的な面があります。客観的な面は主観的な面のためです——ローマ 8:34, 10. コロサイ 3:1. 1:27。
 2. 客観的な教理は主観的な真理のためであり、主観的な真理は召会を生み出すためです——II ヨハネ 1-2, 4 節. III ヨハネ 3-4, 7-9 節前半。
 3. 主は聖書の中の主観的な真理を回復することを、特に、三一の神と召会に関する真理の主観的な面を回復することを願っています——ヨハネ 1:14. 14:16-20. I テモテ 6:15-16. II テモテ 4:22. 3:15-16。
 4. 多くの極めて重要で主観的な真理が葬られてしまいましたが、主の回復の中で、これらの真理は復活させられて、回復され復活した真理となりました——ヨハネ 17:17. 18:37 後半。
- IV. わたしたちは「この世の時代」において真理を証しするとき、勝利を得たキリストと一であり、サタン、悪魔、うそつきの父、「この世の支配者」、「信じない者たちの思いをくらまして」しまった「この時代の神」に敵対して戦います——エペソ 2:2. ヨハネ 8:44. 12:31. II コリント 4:4 :

- A. 悪魔の性質は偽りであって、死と暗やみをもたらします。暗やみがあれば、真理の正反対である偽りがあります——ヨハネ 8:44 :
1. 悪魔は「真理に立っていない。なぜなら、彼の中に真理はないから」です——44 節。
 2. サタンの暗やみは神聖な光に相對し、サタンの偽りは神聖な真理に相對します——I ヨハネ 1:6。
 3. 神聖な真理が神聖な光の表現であるように、サタンの偽りはサタンの暗やみの表現です——ヨハネ 8:12, 44。
- B. 「この時代の神」はサタン、欺く者、この現在の時代の支配者です。彼は今日の世界を統治し、信じない者たちの思想、思いをくらますことによって、人の礼拝を捕らえます——II コリント 4:4 :
1. II コリント 第 4 章 4 節の「くらまして」は、人の理解力を覆うことを意味します。
 2. この節の「思い（文字どおりには思想）」は、思いの理解力を意味します。

- C. 「全世界は邪悪な者の中に横たわっている」—— I ヨハネ 5:19 後半：
1. サタンの全世界の体系と、この世の人、すなわち墮落した人類は、邪悪な者サタンの強奪し操縦する手の下に、受け身的に横たわっています。
 2. ギリシャ語で「邪悪な者」は、致命的で有害な邪悪な者であり、人に影響して邪悪にならせる者を指しています。この邪悪な者はサタン、悪魔であり、全世界は彼の中に横たわっています——19 節後半。
 3. 主の肉体が十字架につけられることによって、この世の支配者であるサタンが追い出されたとき、この邪悪な体系、暗やみの王国は裁かれました——ヨハネ 12:31. 14:30. 16:11。
- D. エペソ第 2 章 2 節の「この世」は、多くの時代から成るサタンの体系を指しています：
1. 一つの時代は、サタンの体系であるこの世の一部です。
 2. エペソ第 2 章 2 節の「時代」は、サタンの体系の現在で現代の現れを指しており、それはサタンに利用されて人を強奪し占有し、神と神の定められた御旨から遠ざけます。
 3. ガラテヤ第 1 章 4 節の「現在の邪悪な時代」は宗教世界、この世の宗教的潮流を指しています。
- E. わたしたちは現在の時代において真理を証ししたいなら、ローマ第 12 章 2 節のパウロの命令に従わなければなりません：「この時代にかたどられてはいけません。むしろ、思いが新しくされることによって造り変えられなさい」：
1. この時代にかたどられ、同形化されることは、神の再生された子供としてのわたしたちの内側から出て来るのではない、またわたしたちの内なる存在を表してもいない外側の表現を帯びることです——ヨハネ 1:12-13。
 2. わたしたちはこの世と同化すべきではありません。またこの世から神へと分離したわたしたちは、この時代と同じかたちを持つべきではありません。
 3. わたしたちは思いの霊の中で新しくされて、ミングリングされた霊がわたしたちの思いの中へと拡大し、こうして思いの霊となるようにし、新しい要素がわたしたちの内なる存在の中へと造り込まれることによって、わたしたちの思い、感情、意志が新しくされるようにする必要があります——エペソ 4:23. I コリント 6:17. ローマ 12:2。
- F. 「ですから立ちなさい。真理を腰に帯として締め」。真理を帯として締めることは、わたしたちの全存在を強めるためです——エペソ 6:14 前半。
- G. わたしたちは神聖な真理を証しすることができます。なぜならわたしたちは、真実な方の中にいることによって真理を知っているからです—— I ヨハネ 5:20：
1. 神の御子である主イエスが来て、真である、実際の神を知る理解力を与えました——ヨハネ 1:14, 18. I ヨハネ 5:20。
 2. I ヨハネ第 5 章 20 節は二回、「真実な方」、真実である方、あの真実について語っています：
 - a. 「真実である方」という言葉は、神がわたしたちにとって主観的になること、客観的である神がわたしたちの生活と経験の中で真実である方になることを指

しています。

- b. 真実である方は神聖な実際です。真実である方を知ることは、この実際を経験し、享受し、所有することによって、神聖な実際を知ることを意味します。
 - c. 20節が示しているのは、神聖な実際、すなわち神ご自身が、わたしたちの経験においてわたしたちの実際となっているということです。かつてわたしたちにとって客観的であった神は、わたしたちの主観的な実際となっています——6節。
- H. わたしたちが真実である方、また真理の霊を知っているので（Iヨハネ 5:20. 4:6）、また真理であるキリストがわたしたちの中に生きており、三一の神がわたしたちの中で活動して、わたしたちを神・人（最初の神・人であるキリストの複製）としつつあるので、わたしたちは真理を証しすることができます。それはまさに主ご自身が行なったことであり、主は言いました、「わたしはこのために生まれ、このために世に来たのである。それは、真理を証しするためである。すべて真理に属する者は、わたしの声を聞く」（ヨハネ 18:37 後半）。